

公共事業再評価調書（農林水産部）

部課室名	漁 港 課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課 長 高崎 伸彦 (菅野 晴行)	内線	4172 (4179)
------	-------	---------------------	----------------------	----	----------------

事業種目	漁港漁村事業	事業名	事業区間	総事業費
		漁港修築事業	室津漁港	約46億円

所在地	事業採択年	着工年度	完成予定年	進捗率 H12末
揖保郡御津町室津	H6年度	H6年度	H17年度	49%

事業の目的	事業内容
当漁港は、船曳網漁業及び小型底曳網漁業を基幹とした陸揚流通加工の拠点漁港であり、特に近年はのり養殖からかき養殖への転換が盛んな地域である。本事業により、外郭施設及び不足している係留施設並びに用地等の基本施設の整備を行い、漁業活動の円滑化、安全性の向上並びに機能性の向上を図る。	防波堤 400m 護岸 145m 物揚場 745m 道路 520m 用地 13,100㎡

進捗状況	平成12年度末までに、外郭施設である沖防波堤は完成し、西防波堤についても取付部を除いて概成している。現在整備中の-2.0m物揚場及び用地についても概成しており、湾奥部の老朽化した係留施設の整備に着手している。
------	--

評価視点	評価結果の説明
------	---------

(1)必要性	本漁港は、播磨灘地域の陸揚流通加工拠点の漁港として、家島・坊勢からの漁船も利用するなど活発な漁業活動が展開されている。しかしながら、湾奥に係留施設が集中していることで非常に混雑し、既存の係留施設の老朽化も著しい。また、背後の狭隘な土地に民家が密集しており、新たな用地展開が困難であり、漁港施設用地の不足も著しい中、カキ養殖の基本施設整備が望まれている。 本計画では、第9次漁港整備長期計画に引き続き、湾口部に係留施設、加工場用地等の整備を行い、湾奥部の大型船を湾口部へシフトすることで係留施設の混雑を緩和する。また、湾奥部の老朽化した係留施設を改修し安全有効な利用を図り、地域の核となる漁港として、陸揚作業の効率化、安全性の確保、新たな養殖展開への支援を図る。
(2)有効性・効率性・有効性	かき養殖については、漁港外で陸揚げ後、加工場へ搬出していることから、湾口部の係留施設、加工場等用地整備により陸揚げから加工までの作業の効率化が図られる。また、漁船漁業においても、外郭施設、係留施設及び用地整備により漁業活動の円滑化、安全性及び機能性の向上が図られる。さらに、湾奥部の老朽化した係留施設の改修により、水際部の地盤沈下対策も図られる。 B/Cは1.35である。
(3)環境適合性	当漁港は、瀬戸内海でも風光明媚なところであり、神武天皇のときに創造されたと伝えられる歴史ある天然の良港である。「歴史の香りがする港町、室津」として、背後の集落は、旧家を保存した民俗資料館等の町並み保存がされており、湾奥部の係留施設の改修にあたっては、昔ながらの湾内の地形を変化させないように施設構造に配慮する。
(4)優先性	湾奥の係留施設の鋼矢板の腐食が著しく、施設の安全性を確保するため早期の改修が必要である。また、湾口部の加工場等の用地整備により、のり養殖からかき養殖への円滑な転換を支援し安定した漁家経営を確保するためにも早期の整備が望まれる。

農林水産部の考え方

再評価の結果	継続	左の理由	上記理由により継続が妥当である。
--------	----	------	------------------